

じ ん だ い

第68号

2022.7.30 (土)

発行：医療法人社団 欣助会 吉祥寺病院

調布市深大寺北町4-17-1 ☎042-482-9151
URL www.kichijoji-hospital.com



基本理念

患者様やご家族の側に立った医療
患者様の社会復帰を目指す医療
全職員相互の力を発揮できる医療



ウミガメ

Contents

カオナシは誰の心の中にもいる……………	1
精神科医療の広がりには惹かれて……………	3
「父と母へ」……………	4
本能寺からお玉ヶ池へ ～その⑫～ ……	5
私の趣味紹介……………	8
新人紹介コーナー……………	9
当院のおすすめメニュー……………	10
外来担当表 / 当院略図 / 巻頭写真募集 / 編集後記 ……	11

カオナシは誰の心の中にもいる

医局 山下 太誠



今年の4月より、医局に入局させて頂きました。
山下太誠と申します。

ご存知の通りこの吉祥寺病院の近くには、ジブリ美術館があります。私は、ジブリ作品の中でも「千と千尋の神隠し」（以下：「千と千尋」と略）という作品が大好きです。今回は、私が思う「千と千尋」から感じるこの精神科との繋がり、そして私の思いをお話ししたいと思います。

まず、初めに千と千尋をご存知でない方のために簡単ではありますが、ストーリーをお話しさせていただきます。

本作は平凡な10歳の女の子・荻野千尋が両親に連れられてトンネルに入り、不思議な世界へ迷い込むところから物語が始まります。両親は豚に変えられ、元の世界に帰る方法もなく途方に暮れていた千尋。そんな千尋を助けてくれたのはハク（イケメン）という少年でした。この千尋が迷い込んだ世界には、働かないものは動物に変えられてしまうという掟があります。この世界で消えないためには、支配者である湯婆婆と契約して働かなければなりません。千尋は、ハクや釜爺からの助言を受けなんとか湯屋で働くこととなります。千尋は、仕事をしていくうちに少しずつ自分の居場所を見つけていきます。そんな中、ハクが湯婆婆に利用されていることを知り、「ハクを助きたい。」と強く思った千尋。もう一度両親と人間の世界に帰るため、そして自分を救ってくれたハクを救うため、臆病だった千尋が不思議な体験を通して成長していく物語です。

「千と千尋」には、さまざまな特徴的なキャラクターが登場します。そしてこの世界で特に目立つ

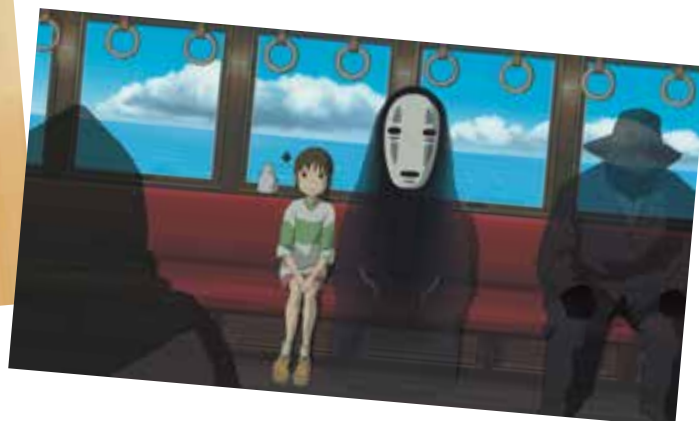
キャラクターがいます。それは「カオナシ」です。カオナシが他のキャラクターと大きく異なるのは、“言葉が話せない”という点です。言葉話すためには他の誰かを飲み込んで、その声を借りるしかないのです。言葉の大切さが表現されているこの世界で、ただ1人言葉が話せないカオナシ。カオナシは自我を持たないので上手く相手に伝えることができない、自我を持っても伝え方が分からない。その結果、自分の居場所がなくなったと感じている悲しくて寂しい存在です。

私は今の世の中は、どんな人でも「カオナシ」になることはありえると思います。それはSNSの発展やコロナ禍によるコミュニケーションの場の減少など様々な理由があると思います。

病院に来る方は様々な主訴(悩み)を持たれて来院されます。特に精神科を受診される方は、病院の敷居が高いことやプライベートな内容を話さなければいけなかったりすること、今まで話をしてもなかなか相手に伝わらなかった経験などからなかなか自我(主訴)を表現することができず、「カオナシ」になりやすい気がします。

上手く社会に溶け込みながらちゃんと自我を保つということは、言葉にするのは簡単ですが実際に行





動に移すのは難しく、特に様々な悩みを抱えられている患者様にとってはさらに難しい世の中だと感じます。

精神科医になった私が診療をするにあたって特に大事にしていることは、人との会話(言葉)です。それは患者様だけでなくご家族の方ともです。話しやすい雰囲気を作ることや、どうすれば心を開いていただけるかを日々意識して診療を行っています。他の科と比較しても、精神科は患者様やご家族との会話が治療の上で特に大切なことだと考えます。不思議なことに精神科の場合、治療をする上で患者様やご家族のことを理解できていないとどれだけいいお薬を使っても上手く治療できないことがあります。精神科の奥深さと同時に言葉の大切さを実感します。

私は、「言葉には力がある」と考えます。言葉は優しさや喜びを相手に与えることもあれば、人を傷つける凶器にもなり得ます。

ここに宮崎駿監督のコメントを紹介します。「千尋の迷い込んだ世界では、言葉を発することは取り返しのつかない重さを持っている。湯婆婆が支配する湯屋では、「いやだ」「帰りたい」と一言でも口にしたら、魔女はたちまち千尋を放り出し、彼女は何処にも行くあてのないままさまよい消滅するか、ニワトリにされて食われるまで玉子を生みつづけるかの道しかなくなる。逆に、「ここで働く」と千尋が言葉を発すれば、魔女といえども無視することができない。今日、言葉はかぎりなく軽く、どうとでも言えるアブクのようなものと受けとられているが、それは現実がうつろになっている反映にすぎない。言葉は力であることは、今も真実である。」

私たちの世界では、「いやだ」「帰りたい」と言ってもニワトリになることも消滅することはありません。しかし言葉の重みは私たちの世界でも同じです。私たちが何気なく発した一つの言葉で、社会に上手く溶け込めなくなったり、その結果、自我を保つことが怖くなり、「カオナシ」になることはあります。その一つの言葉でその人の人生を変えてしまうこともあるのです。

私も一つ一つの言葉を大切にし、患者様とたくさんお話をしていきたいと思います。少しでも「カオナシ」になってしまった人が減るようにこれからも診察を続けていこうと思います。

ちなみに「カオナシ」は映画終盤で銭婆の家という抛りどころを見つけ、穏やかな様子に変わります。これは「どれだけ疎まれて寂しい存在であった「カオナシ」も、周りの人の温かさや優しさがある居場所を見つけたことで、心の平穏を取り戻し活躍することができる」というメッセージだと私は考えます。

見た目は、「ハク」、気持ちは「銭婆」のように患者様とご家族の心の居場所になれるよう僕も頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。



※使用している写真は、スタジオジブリのフリー素材です

令和2年度より、東京女子医大病院からの外勤先としてこちらで勤務させていただいております。今年度からは、出向というかたちで吉祥寺病院所属となり週4日勤務となりました。以前より一層、スタッフの方々にお世話になる機会が増えております。吉祥寺病院のスタッフの方々のフットワークの軽さと患者さんを思う気持ちの強さは、私自身の臨床への意欲・向上心もいつも掻き立ててくださいます。今後とも、よろしくお願いいたします。

さて、昨今の情勢においてはなかなかスタッフの方とプライベートの話をする機会がないため、ご興味は全くないかと思いますがこの場を借りて私の趣味の話をさせてください。

とは言ったものの、これといって大きな趣味がないのが最近の悩みでもあります。ディナーや居酒屋での飲み歩きも好きですし、映画もほどほどに好きだし、旅行も好きだし、遊園地に行くのも好きなのですが、これぞ!というものは無いのです。逆にいえば、“広くなんでも楽しめてしまう”ところは強みかもしれないと自負しております。コロナ禍を脱すれば、是非活動も再開したいところです。

特定の事に没頭することができず、“広くなんでも楽しむ”の精神で生きているのですが、仕事においては違って、精神科以外の分野には全く興味が持てなかったというのが本心です。大学生では、内科分野の勉強ばかりでしたがどこか広がりがなく窮屈な印象を常に抱いていました。精査をして、診断を確定させ、ガイドラインに準じて投薬を行うといった多様性に欠ける医療と、その医療に必ず“正解がある”ことにも魅力を感じることができませんでした。ある程度の経験を積み、一定の知識が得られれば、どの医師がみても同じ治療が選択され同じ結果がもたらされることは、非常に窮屈に思えます。

一方で、精神科医療の多様さと広がりには大きな魅力と安心感すら感じました。漠然と感じていたその魅力・安心感は実際に臨床現場に出てからさらに確固としたものとなっています。患者さんごとのストーリーや人生が無限に目の前に広がっており、さらには医療者が選択する治療も無限な多様性を秘めています。そして、治療の選択には“正解がない”

のです。そのため、主治医ごとに治療のアプローチが全く異なるしそこに正解はありません。昨今、生物学的な研究が進んできており、薬物治療の開発も盛んで、やや内科的な窮屈さを感じさせつつある精神科ですが、患者さんごとに無限のストーリーがある以上、そのストーリーに沿った医療を提供しなくてはならない我々の仕事の広がり、今後も失われることはないでしょう。

プライベートでの趣味が“広くなんでも楽しむ”であるのに対して、仕事では“精神科にしか興味を持てない”というのは同じ人間においては矛盾しているのでは？と自身でも思っておりました。しかし、その精神科が無限な広がりを見せているのであれば、やはり仕事においても“無限な広がりを楽しんでいる”のかもしれない、と原稿を書きながらどこか納得した次第です。

週4日勤務となってから3か月ほどが経過しますが、まだ不慣れなことも多く、皆様に多大なご迷惑をおかけしているかと思えます。そんな中でも暖かく見守ってくださる皆様にはいつも感謝の気持ちでいっぱいです。“広くなんでも楽しむ”の精神で、皆様とも今後多くの交流の機会が作れればなと思っています。コロナ禍が明けましたら是非よろしくお願いいたします。



4月より吉祥寺病院に入職しました、精神科専攻医1年目の小島速人（おじまはやと）と申します。名字の読み方を間違えられる度に、自分はまだ新入りなのだと襟を正す日々です。入職して2ヶ月ほどたったある日、医局秘書の高橋さんより新規入職者として本誌への寄稿依頼がありました。内容については「書きたいことを書いていいですよ」と。精神科医になった私が今一番、文字で誰に何を伝えたいのか。考えて出た答えは意外にも「両親への感謝」でした。こんな考えが浮かんだ自分に驚きつつも、畏まって直接伝えるのは恥ずかしいので、こういうことはここにひっそりと書き残すくらいが自分らしいかもしれません。といいつつもこれはこれで気恥ずかしく大変恐縮なのですが、案外丁度良い機会ですので、両親への手紙をもって今回の寄稿とさせていただきます。

父へ。私は今、精神科医として働いています。元気にしていますでしょうか。私は相変わらず好き勝手やっています。あなたはあまり家にいませんでした。平日休日、朝晩問わず仕事で、よく出張に行ったり職場に泊まったりしていました。忙しい合間を縫って、子供達を色々なところへ連れて行ってくれた日もあれば、仲間と飲みに行く日もありました。あなたが一生懸命働いてくれたおかげで、私は医学部に進学することが出来ました。しかし大学4年の3月、何の前触れもなく、あなたは突然この世を去りました。あれから6年経ち、紆余曲折、様々な葛藤と決断を経て、というわけか私は精神科医になりました。精神科医という職業に就いてまだ数ヶ月ですが、この仕事はとても楽しいです。学問としての魅力もそうですが、患者さんやご家族とお話しし、その人達の人生に触れること自体に面白さを感じます。これは「やりがい」とは少し違うように思います。患者さんやご家族に感謝されることは確かに喜ばしいことですが、治療をするという医師の使命を果たしただけだと思ってしまうのです。あなたはどんな思いで仕事に取り組んでいたのか、もし生きていたら聞いてみたい。6年経った今でも、「親父だったらなんて言うかな」なんて思うことは多々あります。そんな時はいつも、あなたが偶然最期に遺した言葉だけが頼りです。何回この言葉を擦ればいいんでしょうか。そろそろ新作が欲しいので、夢にでも出てきてくれと思っています。いつでも待っています。

幸い、私は人に恵まれています。将来に迷った時、国家試験に落ちた時、辛い時はいつでも私の周りには支えてくれる人がたくさんいました。たくさんの仲間に生かされて、今があります。そんな今があるのも、親父の教えがあってこそだと改めて思います。これからも人の悪口は言わず、周りの人を大切にします。そして母より先に死なず、子供が結婚する時くらいまでは生きていようと思います。

母へ。関東に戻ってきて、最近会う機会が増えましたね。今日の調子はどうですか。心のブレーキをかけながら生活できていますでしょうか。私は幼い頃から、資格のある仕事を選びなさい、医者を目指すのはどうか、とそれとなく刷り込まれてきました。はっきりとした反抗期もなく育った私は、結局その言葉の通り医学部に進学し、医師免許を取得しました。入学当初、自分はなんだかんだで敷かれたレールに乗ってしまったという後悔の念を抱いていました。他の道を選ぶ勇氣も度胸もなかったくせに、足元に伸びるそれを、そしてそれにまんまと乗っかっている自分を呪いました。でも今になってようやく、あの時の言葉は親心だったのだと思えるようになりました。精神科医になった今、この職業でしかできないような貴重な体験ができています。このような世界に導いてくれたことに感謝しています。私が精神科医になるよりも前に、あなたが患者になったのは想定外でした。この間も話したけど、実家の引っ越しの時、連日お母さんの話を聞きながら手続きを進めるのはなかなか骨が折れました。でもあの時の経験は確実に、日々の診療に生かされています。自分の家族を診る思いで、ひとりひとりの患者さんと接することができています。こんなふうに振り返れる日が来て本当によかった。これからはお大事に。書いていて気付いたけど、書こうとしていたことは既に伝えたことばかりだったから、会う度に割と思ったこと言えていたかもしれない。改めて書くのもあれだから、今回はこの辺で。また美味しいものでも食べに行きましょう。あと藤井風がかっこいい話はほどほどにしてください。

さざ波や 風の薫の 相拍子
(芭蕉)

風薫る夏が来ました。…かと思えば、もう盛夏です。

自ら「納涼」と謳い、芭蕉さんらしく琵琶湖の波音を詠んだこの句は、芭蕉さんが近江で詠んだ最後の句になりました。



医局 西岡 暁

[14] 無縁坂

「本能寺からお玉ヶ池へ」の流れは、玉という名の3人の女性に縁があります。

初めは、勿論(?)「本能寺の変」を起こした明智光秀の三女・玉(後のガラシャ)。

次は、明智光秀の末裔・三宅良斎と織田信長の末裔・坪井信道(二代目)たちが「力をあはせて」開いた江戸の種痘所の建つ処にその(百年以上)昔あった池に入水し(て池の名前になっ)た茶屋の娘・玉。

そしていま一人の玉は、和泉橋から本郷への(大学東校→東大医学部の)流れ(?)の中に居るのですが、実は彼女は実在の人ではありません。では、一体何者?

それを知るには、(一昨年[4]で登場し、今年が没後百年の)森鷗外(1862~1922)に訊かねばなりません。

「古い話である。僕は偶然それが明治十三年の出来事だと云うことを記憶している。」と始まるのが鷗外の小説「雁」ですが、この小説のヒロインが「玉」という名前なのです。「雁」は、こう続きます。

「…その頃僕は東京大学の鉄門の真向いにあった、上条と云う下宿屋に、この話の主人公と壁一つ隔てた隣同士になって住んでいた…」

「東京大学の鉄門」は、お玉ヶ池種痘所の正門が(転じて種痘所全体も)「鉄門」と呼ばれたことに始まります。種痘所の鉄門がそのまま大学東校→東京医科大学の正門として使われ、1876年、東京医学校が加賀藩上屋敷跡(=現在の東大本郷キャンパス)に移転した際には鉄門も移築され、翌年「東京大学医学部」が発足すると、鉄門は東京大学の正門になります。尤もこの時本郷には医学部だけしかありませ

んでした。東京大学発足の2年後(1879年(明治12年))、鉄門は(老朽化のため?)文字通り鉄(製)の鉄門に生まれ変わりました。その「鉄門」は1918年に撤去されて姿を消しますが、90年後に「東大医学部創立150年」を記念して復元されました。ただ、元々鉄門があった場所には既に東大病院の建物が建っていましたので、復元後の鉄門は元の場所から少々東にあります。

「この話の主人公」の住む下宿屋は、今は東大病院の「南研究棟」が建つ処です。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、この南研究棟は通称「赤レンガ」と呼ばれ、20年前まで精神科病棟がありました。

森鷗外の「雁」が棲む「不忍池」はその昔琵琶湖に見立てられていました。そして「岡田の日々の散歩は大抵道筋が極まっていた。寂しい無縁坂を降りて、愛染川のお歯黒のような水の流れ込む不忍の池の北側を廻って、上野の山をぶらつく。…狭い賑やかな仲町を通って、湯島天神の社内に這入って、陰気な臭橋寺の角を曲がって帰る。」そうです。

「お玉ヶ池種痘所」を源流とする東京医学校は、1876年(下谷和泉橋通から)本郷台地に移転しました。東京医学校は翌年東京大学医学部となります。台地なので、周りの道は坂だらけです。北から、新坂、異人坂、弥生坂、暗闇坂、無縁坂、と五つある坂の中、医学部所縁の坂と言えば、異人坂と無縁坂です。その「…無縁坂の南側は岩崎の邸であったが、まだ今のような巍々たる土堀で囲ってはなかった。きたない石垣が築いてあって、苔蒸した石と石との間から、齒朶や杉葉が覗いていた。」

「岩崎の邸」は、元々越後高田藩の江戸中屋敷だったのを、「雁」の年(1878年(明治13年))に三菱財閥(初代)の岩崎弥太郎(1835~1885)が購入したものです。「雁」から16年の後、そこに三菱財閥3代目・岩崎久弥がジョサイア・コンドル設計の洋館を建て、「巍々たる土堀」は赤レンガの堀になり、今でもその洋館は都立公園「旧岩崎邸庭園」(@台東区池之端1丁目)の中に堂々と建っています。

この「岩崎の邸」は、ほんの少し「本能寺の変」と関わりがあります。1685年(貞享2年)からの16年間越後高田藩主だった稲葉正往(1640~1716、明

治維新時の藩主は榊原政和)は、「本能寺の変」当時明智光秀の重臣だった斎藤利三の三女・福の曾孫です。斎藤福(1579~1643)は、皆様ご存知のように後の春日局です。曾孫・稲葉正往の正室は、保科正之(家光の異母弟)の四女・石でした。

岡田が散歩の終盤に見る「臭橘寺」は、「岩崎の邸」以上に「本能寺」と関わりがあります。この寺は、(開山以来260年の間)枳殻^{からたち}の生垣を廻らしていたので「からたち寺」と呼ばれますが、本名(?)は、「天澤山麟祥院」(＠文京区湯島4丁目)と言います。「本能寺」との関わりと言っても、本能寺は法華宗で麟祥院は臨済宗妙心寺派なので、宗教上の関わりではありません。麟祥院の開基が、「本能寺の変」の主役の娘・春日局であり、その墓所が麟祥院にあるのです。

小説「雁」で「九月の或る夕べ」、岡田は無縁坂の「岩崎の邸」の辺りで「一人の湯帰りの女」が「寂しい家に這入る」のを眼にします。女は後に岡田と少々親しくなるのですが、女の名を岡田が知ることはありませんでした。

後日「雁」の「僕」が語るには、

「まだ大学医学部が下谷にある時の事であった。灰色の瓦を漆喰^{しっくい}で塗り込んで、碁盤の目のようにした壁の所々に、腕の太さの木を竝^{たて}に並べて嵌めた窓の明いている藤堂屋敷の門長屋が寄宿舍^{きしやく所}になっていて、学生は其中で、ちと気の毒な申分だが、野獣のような生活をしていた。」「寄宿舍には小使^{すえぞう}がいた。」「小使の一人に末造と云うのがいた。」「金がな

い時は末造が立て替えてくれると云うことを僕は聞いた。」「…次第に五円貸す十円貸すと云うようになって、…とうとう一人前の高利貸になった。」「学校が下谷から本郷に遷る頃には、もう末造は小使ではなかった。しかしその頃池の端へ越して来た末造の家へは、無分別な学生の出入^{でいり}が絶えなかった。」そうです。

この「学校が下谷から本郷に遷る」話は、去年[8]でお話しました。そして「無縁坂の女」は「末造の妾^{めかけ}」になるのですが、女の名前が「玉」なのです。

「雁」のヒロイン「玉」が何故「本能寺からお玉ヶ池へ」の流れの中なのか？ と言うと、「無縁坂の女」=玉を妾とした高利貸・末造の客の医学生^{うつ}の「学校」こそは「東京大学医学部」であり、「種痘所は東京大学医学部のはじめにあたる」(「お玉ヶ池種痘所記念碑」)からです。

ただ、「大学医学部が下谷にある時」と言うのはちょっと違います。「学校が下谷から本郷に遷る」のは事実ですが、「学校」が下谷和泉橋通の「藤堂屋敷」にあったのは、「お玉ヶ池種痘所」を源流とする「医学所」が「大病院」「医学校兼病院」「大学東校」「第一大学区医学校」「東京医学校」と5度も名を変えた8年の間のことで、「学校が下谷から本郷に遷」った翌1877年(明治10年)になって始めて「東京医学校」は「東京大学医学部」になったので、「大学医学部が下谷にある」ことは無^なかつたのです。



映画「雁」より 岡田(芥川比呂志)、お玉(高峰秀子)

「雁」の末造には、モデルがいます。三宅秀を初代とすると9代目(種痘所時代からすると22代目)の東大医学部長である入沢達吉(1865~1938)の文にこうあります。

「その頃(明治10年頃)の本科生は皆、大学の小使上りの岡田元助^{がんすけ}という医学士専門の高利貸、『癌』^{あだな}という綽名^{あだな}があったその男から高利の金を、背負い切れない程借金して…」

この「岡田元助」が「末造」のモデルです。「癌」の元助が「雁」の末造になったという訳です。

「雁」の主人公・岡田にもモデルはいて、それは緒方洪庵の六男・収二郎とされています。収二郎の兄・緒方惟準^{これよし}(洪庵の次男で「大病院」の二代目取締役。なお、昨年述べたように大病院は、大学東校、東京医学校、を経て東大医学部へと発展します。)は帝国陸軍軍医になり、麦飯で脚気を予防する業績を上げるも森鷗外ら上層部と対立して軍を去り、大阪に帰って(妹・八千代の夫=)拙斎と共に緒方病院(現・くりにつくおがた)を開設し、収二郎はその二代目院長になりました。

「雁を肴に酒を飲む」(医学生ではない)東大生・石原のモデルは嘉納治五郎(1860~1938)だという説があります。語り手の「僕」のモデルは、勿論(?)鷗外自身でしょう。

そして、肝心の「玉」のモデルは、「雁」の2年前に発表された小説「キタ・セクスアリス」に書かれた三ノ輪の古道具屋「秋貞」(当時は実在でしたが、その後閉店)の娘、とも言われますが、鷗外の

(赤松登志子と離婚後荒木志げと再婚するまでの)愛人だった児玉せきの方が相応しいようです。

森鷗外は、東大医学部を卒業した8年後に赤松登志子と結婚しますが、登志子は順天堂学祖・佐藤泰然^{たかなか}の曾孫ですから、この時、泰然の養子・尚中の娘・藤が妻である三宅秀と(登志子と離婚するまでの一年半の間、義理のではあれ)姻戚になっています。

[9]で述べたように、三宅良斎の長男・秀は(東京医学校の後身=)東京大学医学部の初代医学部長になり、「古い話」(「雁」)の時代(1880年)も鷗外の在学(1881年卒業)中も学部長の座に居ました。ですから、作中の「岡田」も「僕」も、種痘所時代から「鉄門」と呼ばれ、明智光秀末裔の三宅良斎が「開基の大功劳者」になり、その息子の三宅秀が学部長になった東京大学医学部で学んでいた訳です。余り知られていませんが、鷗外は東大卒業時の席次が30名中8番で、希望していた国費留学の枠(=席次1or2番)に入れませんでした。すると鷗外は、何を思ったか医学部長の三宅秀に直談判に及びます。勿論三宅秀は、鷗外の妄言(?)を毅然として撥ね付けました。



無縁坂

私の趣味紹介

1967 Triumph Bonneville T120R

1930年代頃から米・ユタ州で開催されている、モータースポーツ地上最速を競う大会「ボンネビル・ソルトフラッツ」英国トライアンフ社がその大会で頂点に立つべく、満を持して開発したのがこのバイクである。

時速120マイル(193km/h)を叩き出し、1959～1967年の間、世界最速の座に君臨していた。

そんな歴史あるバイクに出会ったのは約2年前。一応エンジンはかかるものの、走りは衰え各部の劣化も激しかった。そこから約1年かけて整備し、コンディションを回復させた。

振動で手が痺れ、ボルトが外れ、オイルが漏れ、ブレーキが効かず、メーターも動かず、ヘッドライトも暗い。しかし、次第にバーチカルツインエンジンの造形美と排気音に憑りつかれ、その全てが最高にカッコいいと思えてしまうのがオールドトライアンフの魅力なのである。



B3病棟 MS

2007 SUZUKI グラストラッカーBIG BOY

私のバイクは中型二輪免許を取って、初めて買ったバイクです。新車で買ってから14年経過し、もうすぐ走行距離10万Kmという節目を迎えようとしています。14年の中で少しずつ自分の乗りやすい様に整備してきました。事故に遭った事や故障する事も多くあり、その度に修理をして今まで乗ってきました。

また、バイクを通じて色々な人と出会う事もできました。そんな繋がりを与えてくれたバイクが私にとって自慢のバイクです。



B2病棟 JA

1988 HONDA STEED400

私は今年の4月に免許を取得し、バイクに乗り始めたペーパーライダーです。私のバイクは、叔父が自分と同じ年齢の時に乗っていたものを受け継いで乗っています。

自慢できるポイントを挙げるとするならば、見た目がカッコいいところです。信号待ちをしている時のビルの窓ガラスに映るバイクは最高です。逆の話をするならば、見た目しかほめる所が見当たりません。叔父から受け継ぐ際に、バイク屋に修理を依頼すると、「こんなに乗りにくいバイクは、初めてだ」といわれ、信号待ちから発進の際には、ピザ屋のバイクに抜かされます。

その他にも山ほど不便なところは、ありますが、それがいつか愛着に変わることを信じてこのバイクとつき合っていきたいと思います。



作業療法科 SR

新しい仲間を
ご紹介！

新人紹介 コーナー

氏名

- ① 出身地
- ② 吉祥寺病院の第一印象

KR

- ① 東京都
- ② 東京都なのに緑や自然が院内にあり落ち着いている印象

AK

- ① 神奈川県
- ② 意外と大きい

JA

- ① 東京都
- ② 患者さんが優しい

SM

- ① 千葉県
- ② スタッフの方々が優しい。レクリエーションが楽しい。

NT

- ① 神奈川県
- ② 中庭にきれいな桜やたくさんのお花が植えてあるのが印象的でした。自分のペースで楽しく働けたら良いなあと思います。よろしくおねがいします。

FM

- ① 東京都
- ② 外来が綺麗

ON

- ① 神奈川県
- ② 職員の皆さんが優しい

HS

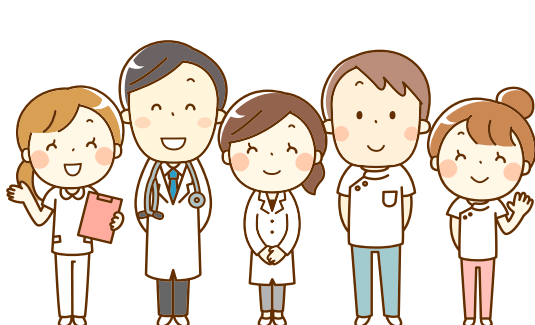
- ① 東京都
- ② 庭の桜が満開でとても綺麗で印象的でした。配属先のスタッフのみなさんは、わからないことを優しく教えてくださるためとても雰囲気の良い働きやすい病院だなと思いました。まだまだわからないことがありますが、頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。

KY

- ① 埼玉県
- ② 病棟のスタッフさんの健康意識が高い。コーヒーが好き。

ON

- ① 北海道
- ② どの病棟も働いているスタッフが明るく和気あいあいとしている印象でした。これから楽しく一生懸命仕事頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



当院のおすすめ
メニュー

豚肉のしょうが焼き

1人分栄養成分

エネルギー 300kcal
タンパク 21.9g
塩分 2.8g



材 料 (2人分)

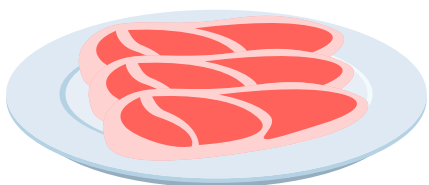
豚肉小間切れ	200g
片栗粉	大さじ2
醤油	大さじ2
すりおろししょうが	大さじ1
料理酒	大さじ1
砂糖	小さじ2
サラダ油	大さじ1

作り方

- ① 豚肉小間切れに片栗粉をまぶす。
- ② ボウルにAを入れ混ぜ合わせる。
- ③ フライパンにサラダ油を入れ中火で熱し、①を入れて炒める。
- ④ 豚肉小間切れに火が通ったら、②を入れて炒め合わせる。
- ⑤ 全体に味がなじんだらお皿に盛り付ける。

《夏バテ対策》

「なんだか暑くて元気が出ない」「疲れがたまっている」そんな時はスタミナのつく料理、しょうが焼きです！ほんのり甘辛い味付けが食欲をそそる上、豚肉に多く含まれるビタミンB1としょうがの組み合わせは疲労回復効果も高まり、夏バテ対策にもってこいの一品です。玉ねぎを加えると、ビタミンB1の吸収率が上がります。



外 来 担 当 表

● 初 診

	月	火	水	木	金	土
第1・3・5週	畑	岡田	森	田澤	鈴木	市川
第2・4週	狩野	西岡	宮原	山室	中村	土井

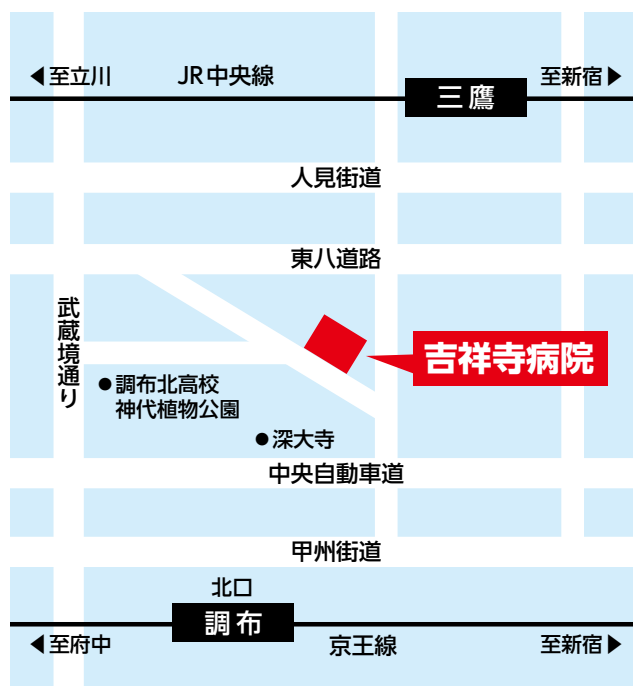
● 再 診

月	火	水	木	金	土
原藤	院長	原藤	土井	土井	森
土井	土井	森	市川	市川	西岡
市川	市川	西岡	田澤	森	山室
森	西岡	山室	山室	西岡	狩野
田澤	山室	岡田	岡田	岡田	亀山
清野	岡田	中村	畑	畑	
		宮原	鈴木	澤井	
		森(栄)		種田	
		南			

受 付 時 間

- 月～金 午前 9 時～11 時 (初診・再診)
午後 1 時～ 3 時 (初診)
- 土 午前 9 時～11 時
午後も入院は受け入れています

当院は「敷地内全面禁煙」です。



調布市深大寺北町 4-17-1

巻頭写真募集

広報委員会では、季節(春・夏・秋・冬)に応じた、じんだいの巻頭写真を募集しています。写真は季節に応じたものであれば、ジャンルは問いません。写真を撮るのが好きな方、提供いただける職員の方は、広報委員会メンバーにお声掛けください。たくさんの応募をお待ちしています。



編 集 後 記

玄関を開けるだけでモワッと暑い空気が押し寄せる日々が始まりました…。暑い中で冷たいものを食べたいのですが、販売されているところはクーラーがしっかり効いている室内。最初は涼しくていいのですが、途中から寒くなってお腹が痛くなるオチがほとんどです。ここ数年は夏っぽいことをしてなくて少し寂しいですが、せっかくなので夏感を味わいたいと思います!!

(ダンゴ)

東京も九州より早く梅雨入りとなり鬱陶しい時期がはじまりました。

コロナもまだまだ終息とはいきませんが、新たな生活様式を皆見つけ出し工夫し日々生活に楽しみを見つけて出しているのではないのでしょうか。

私の住む地域では2年ぶりに夏祭りが開催されることが決定し、徐々に元の生活を取り戻そうと奮闘しています。ヒーローショー、吹奏楽演奏、露天等楽しみたいです。

(ゴル吉)